



IRPA 理事会 選挙結果

(投稿者 Bernard le Guen, IRPA 執行役)

2016 年は IRPA にとって忙しい年です。まもなく南アフリカ国のケープタウンで第 14 回 IRPA 会議が開かれ、そこでは IRPA の 50 周年を祝います。

その総会において、IRPA 理事会 (EC) の顔ぶれが新しくなります。3 つの役職: Renate Czarwinski が務める会長、Thiagan Patter が務める副会長 (IRPA14 大会長)、Richard Vetter の役員のポストが空席となり、そこに新しい役員が就任する予定です。

当方から応募への呼びかけに対して、8 つの IRPA 加盟学会から理事会メンバーの候補者が示されました。それらの方々は、欧州から 2 人: イタリア AIRP 学会の Marie Claire Cantone とドイツ-スイス FS 学会の Klaus Henrichs; 北米および南米から 3 人: 保健物理学会の Steven H. King、カナダ CRPA 学会の Nick Sion およびブラジル SBPR 学会の Helen Khoury; アジア太平洋地域から 2 人: 日本保健物理学会の吉田浩子とオーストラリアの ARPS 学会の Brad Cassels; そしてアフリカから 1 人: 南アフリカ放射線防護協会 ARPA の Shane Motlhaloga です。加えて、次期執行役員の候補者として、会長に Roger Coates、副会長に Eduardo Gallego、執行役に Yours Truly のお名前が挙がっています。現在の出版委員長である Christopher Clement と会計責任者の Dick Toohey はそのままもう一期務められる予定です。

今回の選挙では、紙を用いた投票と同じ原則に従いつつ、初の電子投票が行われます。有効投票数の半数以上を獲得した候補者が選任されることとなります。投票はすべての役職が埋まるまで繰り返されます。

今回多くの候補者のお名前が挙げたことは、IRPA 加盟学会の熱意と IRPA のグローバルな活動を示唆していると思います。次期理事会メンバーにノミネートされた方々の幸運をお祈りします。

本号の目次

1. IRPA 理事会 選挙結果
2. 若手専門家表彰の候補者
3. IRPA14 リフレッシュコース
4. IRPA と WiN Global の連携
5. ACRD の創設
6. AIRP からの報告

IRPA 出版委員会

委員長: Christopher Clement
副委員長: Bernard LeGuen

会報編集:
Chunsheng Li, Ali Shoushtarian

加盟学会リエゾン:
Adelene Gaw

ウェブサイト管理運営:
Andy Karam, Chris Malcolmson

ソーシャルメディア管理運営:
Sven Nagels, Chris Malcolmson

メディア情報収集・提供:
Melanie Rickard
Ralph Thomas
Sven Nagels
Young-Khi Lim
Duncan McClure
Daisuke Sugiyama
Cheng Wei

国際放射線防護学会 (IRPA)

 <https://www.facebook.com/IRPA0>

 <https://twitter.com/IRPA>

 www.irpa.net

この"IRPA 会報"の日本語訳は、IRPA の公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPA はその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

IRPA 2016

www.irpa2016capetown.org.za



事務局:

Turners Conferences

Po Box 1935, Durban 4000, South Africa,

Telephone +27 31 3688000

Email: info@irpa2016capetown.org.za



IRPA 若手専門家表彰の候補者

ここに若手専門家表彰の候補者についてお知らせすることを喜ばしく思います。選ばれた皆様に対し、今回のノミネートを祝福するとともに、さらなる成功を願います。

本表彰の目的は、若手の科学者や専門家が、放射線防護やそれに関連する諸課題に関する研究に一層活発に取り組めるようにすることです。IRPA若手専門家表彰の受賞者には、経験を積んだ専門家や同僚から成る国際的な聴衆を相手に、自身の業績について口頭で発表する機会が与えられます。

同表彰の候補者は以下のとおりです:

姓	名	会社/組織	国名
Alameen	Suhaib	College of Medical Radiologic Science	スーダン
Alejo Luque	Luis	Medical Physics Department, Hospital Universitario La Paz	スペイン
Chizhov	Konstantin	Burnasyan Federal Medical Biophysical Centre	ロシア
de Vos	Hendrk	Netcare Hospital Group	南アフリカ
Drouet	Francois	EDF Saint-Alban NPP	フランス
Fantínová	Karin	SÚRO (National Radiation Protection Institute)	チェコ
Gillenwalters	Elizabeth	Ameriphysics, LLC	米国
Infantino	Angelo	University of Bologna	イタリア
Jones	Adam	Guy's & St. Thomas' NHS Foundation Trust	英国
Kabrt	Franz	University of Natural Resources and Life Sciences, Vienna, LLC-Laboratory Arsenal	オーストリア
Matsumoto	Shinnosuke	Oita University of Nursing and Health Sciences	日本
Ndjana Nkoulou II	Joseph Emmanuel	University of Yaounde	カメルーン
Pántya	Anna	Hungarian Academy of Sciences Centre for Energy Research	ハンガリー
Papp	Cinthia	Comisión Nacional de Energía Atómica	アルゼンチン
Park	Jong Min	Soul National University Hospital	韓国
Pregler	Anja	Albert-Ludwigs-University	ドイツ
Razakarimana nana	Tahiry	INSTN	マダガスカル
Tuca	Carmen Alexandra	Horia Hulubei National Institute of Physics and Nuclear Engineering	ルーマニア
van Dillen	Teun	National Institute for Public Health and the Environment (RIVM)	オランダ
Youness	Esserhir El Fassi	University of Ibn Tofail	モナコ

詳細については会議のウェブサイトをご参照ください:

www.irpa2016capetown.org.za

RPA14 リフレッシャーコース

IRPA14 では、様々なトピックスについてのリフレッシャーコースを提供します。詳細については以下のウェブサイトをご参照ください:

http://www.irpa2016capetown.org.za/ScientificProgramme/Programme_RefreshersCourse.asp

2016 年 5 月 9 日(月)

RC1	放射線の生物学的影響と個人毎の感受性	Michel Bourguignon IRSN
RC2	コンピューター断層撮影における線量評価と最適化	Christoph Trauernicht UCT
RC3	放射線安全のための管理システム	Phil Metcalf ENSTTI
RC4	石油産業、ガス産業および鉱業における放射線防護	Mohammad Aref Weatherford
RC5	緊急時におけるリスクコミュニケーション: 原則と課題	Patrick Meschenmoser IAEA

2016 年 5 月 10 日(火)

RC6	DACTARI - 放射性物質の化学毒性および放射線毒性に関するデータベース	Eric Ansoborio CEA
RC7	新しい放射線安全基準の取入れについて	Tony Colgan IAEA
RC8	超ウラン元素を含む内部被ばく線量評価	Dick Toohey M H Chew & Associates
RC9	呼吸に関連した放射線防護	Marcos Amaral SBPR
RC10	汚染地域復旧のための土地毎の参照基準	Steven Brown SHB Inc

2016 年 5 月 11 日(水)

RC11	原子力発電所における被ばく線量低減にかかる最適化: 施設の設計、運用およびデ コミにおける ALARA プログラム	Willie Harris Exelon
RC12	ハイブリッドイメージング: 放射線安全にかかる課題とコンプライアンスにかかる問題	Napapong Pongnapang ISRRT
RC13	コンピューター線量評価とモデル計算の医学への応用	Pedro Vaz IST
RC14	輸送における安全とセキュリティのインターフェース	Piet Bredell Piet Bredell Nuclear Consultants cc
RC15	食品および飲料水に含まれる放射性物質の管理	Tony Colgan IAEA

2016 年 5 月 12 日(木)

RC16	非電離放射線の測定とその適合性に関する試験	Theodoros Samaras Aristotle University of Thessaloniki
RC17	放射線治療のイメージングにおける放射線防護上の課題	Ola Holmberg IAEA
RC18	水晶体、皮膚および手足における被ばく線量モニタリング	Filip Vanhavere SCKCEN
RC19	使われなくなった密封線源の取扱と調整に関する放射線防護上の問題	Andy Tompkins IAEA
RC20	生態系の防護: その方法論と影響評価のツール	Brenda Howard Centre for Ecology and Hydrology

IRPA と WiN Global との連携活動に関する実務的協定

(投稿者 Renate Czarwinski, IRPA 会長)

2016 年 3 月 3 日、IRPA 会長の Renate Czarwinski と WiN Global の会長 See-Moon Park は、IRPA15 会合準備のため、韓国ソウルを訪問したのを機に、両者間の連携活動に関する実務的協定を結びました。

WiN Global と IRPA は、各々が放射線防護に特定の寄与をする一方で、共通の関心分野において、両機関の連携が品質に妥協することのない放射線の安全利用の総合的な共通目的や放射線の安全取扱いの促進に貢献するものと信じています。

共通の関心分野のひとつとしては、「国際原子力安全及びセキュリティ基準が世界中で履行されなければならない」という WiN Global の声明を、WiN と協力して実行することです。この声明は、2015 年にウィーンにおいて開催された WiN の年会において承認されました。

WiN Global には、現在、107 か国から国の支部会員及び個人会員を含む 25,000 名の会員がいます。WiN は 30 を超える国、地域、国際的な支部を持ち、まだ成長を続けています。会員は医療機関、規制当局、産業に従事する人たち（男女）及び個人の研究者です。これらの会員は、公衆に対して情報提供や意見交換を行うという、共通のコミットメントを持っています。活動は、ネットワークや四半期ごとの会員向けのニュースレターの発行及び一般の方々との意見交換やメンタープログラムの主催といったことを行っています。



カメルーン放射線防護開発学会（ACRD）の創設

(投稿者 Rose Marie Lydie)

2010年モロッコのイブン Tofail 大学の理学部、物理・原子力技術分野のチームと私が在籍していたカメルーンのイブン Yaounde 大学理学部の博士課程学生の間で研究協力を開始しました。このような研究協力により、4つの科学的出版物を作成することができました。これらの科学的出版物が裏付けとなり、Choukri 教授及び Hakam 教授の指導のもと、2014年6月20日には、私の博士論文はイブン Tofail 大学理学部に収められました。2010年及び2011年には、私は博士論文を作成するための実験解析を行う目的でモロッコに滞在しました。前研究所所長でモロッコ放射線防護学会の事務局長 Choukri 教授及び副事務局長の Hakam 教授と意見を交わすことを通じて、彼らの能力、経験そして知識から多くの有益なことを学ぶことができました。2012年にはカメルーンに戻り、2013年6月28日に記念すべき設立の日を迎えた ACRD のために尽力しました。この組織は、医療関係者、産業界、研究者とともに、放射線影響から人、財産及び環境を防護するという目的を持って、私たちの国の放射線防護文化の普及に効果的に寄与するための取り組みを行っています。

Choukri 教授のご尽力により、私たちは2014年5月19-24日にモロッコで開催されたモロッコ放射線防護学会（AMR）の事務局として Choukri 教授が大会長を務める第4回アフリカ放射線防護会議（AFRIPA04）に参加することができました。

ACRD は Choukri 教授、Hakam 教授、そしてそのほかの AMR の全てのメンバーに、この設立に向けた彼らの分かち合いを重んずる心、彼らの有能さ、彼らのもてなしの心、支援と後見に対し、感謝の意を表したいと思います。

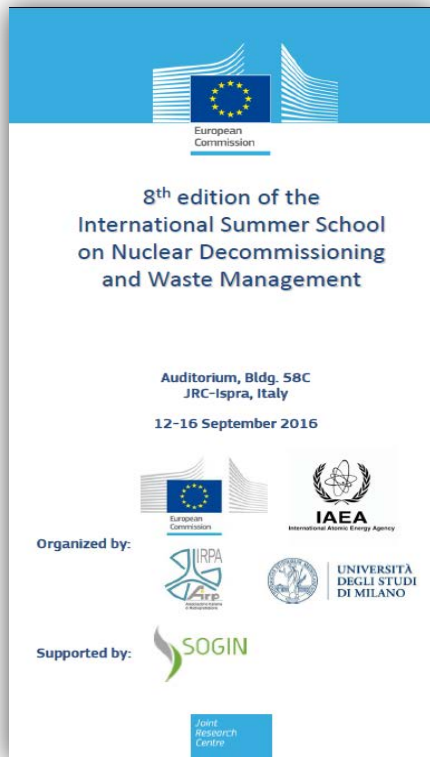


AIRP からの報告

(投稿者 Marie Claire Cantone, イタリア防護学会長)

ニュース 1: この数年間、イタリア防護学会 (AIRP) はイタリア語を話す関係者に有益となるよう、科学者の協力により ICRP Publication 112、105 及び 103 をイタリア語に翻訳してきました。また、AIRP の協力機関である AIFM、AIRM 及び ANPEQ とともに、ICRP Publication 118 「組織反応に関する ICRP 声明ならびに正常組織・器官における放射線被ばくの早期および晩発影響 - 放射線防護の観点から見た組織反応のしきい線量」の翻訳を行ったところ、大変喜ばれました。翻訳した内容は無料で ICRP のウェブサイト http://www.icrp.org/docs/P118_Italian.pdf からダウンロードすることができます。

ニュース 2: 国際サマースクール



2016年9月12日~16日に、イスプラ（イタリア）において、第8回原子力デコミッションング及び廃棄物管理の国際サマースクールを共同研究センター・超ウラン研究所の核セキュリティユニット(JRC ITU)によって、共同研究センター・イスプラサイト管理部の原子力デコミッションングユニット(JRC-ISM)、ミラノ大学、国際原子力機関 (IAEA) の協力、原子力発電所管理会社 SOGIN の支援により、開催します。

参加者は直接、専門家や他の参加者と課題について議論することができます。そして、彼らの国際的な経験を学ぶことができます。今年のコースは複数の技術セッションから成り、今後、原子力デコミッションングや放射性廃棄物管理を実施している施設や研究所を訪問する予定です。

さらに詳しい情報は、以下のサイトをご参照ください：
<http://radioactivewastemanagement.org>

参加登録締切：2016年8月26日

参加者数は60名。登録は無料です。

参加登録はこちらから：<https://web.jrc.ec.europa.eu/rem/>